

第24回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。（ただし、いつか活字になるかも(?)しれません。お約束できませんが……）

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、インフォメーションに記載の書籍等をご覧下さい。

2006年 11月 18日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

jjin-ogura@management-dynamics.co.jp

「なぜなぜ分析」と「どうする分析」

どんな事柄でも「なぜ」を繰り返せばよいというものではありません。

原因追求をする場合は「なぜ」を繰り返せばよいのですが、新たな切り口や新たな発想をひねり出す場合には「なぜ」の代わりに、「どうする」を繰り返す(ここでは、「どうする分析」とでもしておきましょう)ことで、切り口や発想を整理しながら、多くの対策案を導き出すことができます。

「なぜなぜ分析」の場合は、あくまで現在の状況を踏まえた上で、おかしいところはないかを探っていくやり方です。

「どうもおかしいなあ」という言葉に代表されるように、思ったようにうまくいっていない場合、または日頃のトラブルの原因追求をしたいの場合などは「なぜなぜ分析」を使ってその原因を探っていきます。

一方、「どうする分析」の場合(一般的には、対策系統図と呼ばれているものですが)は、現在の状況を踏まえた上で、何をどのように変えれば良くなるのかを探っていくやり方です。

現状には満足してはいないけれど「何か良い方法がないかなあ」という場合、または根本的な原因が見つかったけれど、その原因を押さえ込むためのもっと良いアイデアはないかなといった場合、さらには対策の方向は決まったが、もっと具体的な実施項目を導かなければいけない、といった場合には、「どうする分析」を使うということになります。

簡単に言うと、「なぜなぜ分析」は弱点部位を探っていくのに対して、「どうする分析」の方は、弱点を克服する手段を探っていく(アイデアを具体化する場合も、結局は弱点の克服が狙いであることには変わりありません)するやり方ということになります。

何でもかんでも「なぜなぜ分析」を実施するのではなく、上記を参考にして、今は「なぜ」と「どうする」のどちらを選択するかをまず考えてから実施しましょう。

以上